

# 新年感謝祈禱

輔司詠 君や、祝讃しゅくさんせよ。  
父と子と聖神の国は崇め讃めらる、今も何時も世世に。  
アミン。

天の王慰なぐさむる者や、真実の神、在らざる所なき者、満たざる所なき者や、萬善ばんぜんの寶藏ほうざうなる者、生命せいめいを賜うの主や、来たりて我等の中に居り、我等を諸の穢けがれより潔くせよ、至善者や我等の靈を救い給え。

誦 聖三祝文、至聖三者、主經  
聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者や、我等を憐めよ。(三次)

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

至聖三者や我等を憐めよ、主や我等の罪を潔くせよ、主宰や我等の愆を赦ゆるせ、聖なる者や臨みて我等の病を癒し給え、悉く爾の名に因る。  
主憐めよ。(三次)

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

天に在す我等の父や、願わくは爾の名は聖とせられ、爾の国は来たり、爾の旨は天に行わるるが如く地にも行われん、我が日用の糧を今日我等に與え給え、我等に債ある者を我等免すが如く、我等の債を免し給え、我等を誘に導かず、猶我等を凶悪より救い給え。

蓋国と権能と光栄は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に。  
アミン。

主憐めよ (三次)。

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

来たれ、我等の王神に叩拝せん。

来たれ、ハリストス我等の王神に叩拝俯伏せん。

来たれ、ハリストス我等の王と神の前に叩拝俯伏せん。

## 第六十四聖詠

神よ、讃頌はシオンに於て爾に属し、盟はエルサリムに於て爾に償われん。  
爾は祈禱を聴く、凡の肉身は爾に趨り附く。不法の行は我に勝ち、爾は我等  
の罪を浄めん。爾が選び近づけて、爾の庭に居らしむる者は福なり。我等は爾  
の家、爾の聖殿の福に厭き足らん。義判に於て畏るべき者よ、神、我が救世主、  
地の四極と遠く海に居る者との恃よ、其力にて山を建て、権能を帯ぶる者よ、  
海の騒、其波の聲、及び諸民の乱を鎮むる者よ、我等に聴き給え。地の極に居  
る者は爾の休徴を畏れん。爾は朝夕を起して爾を讃栄せしめん。爾地に臨みて、  
其渴を止め、豊に之を富ましむ、神の流には水盈ち、爾穀物を備う、蓋此く  
の如く之を作れり、爾其畎に飲ませ、其塊を平げ、雨の滴を以て之を柔ら  
げ、祝福して芽を出さしむ。爾の恩沢を以て年に冠らせ、爾の歩には膏滴る、  
即郊邊の牧場に滴り、丘は喜を帯ぶ、草原は獸の群を衣、谷は穀物にて蔽  
われ、歡び呼びて歌う。

光荣は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神や光荣は爾に帰す。(三次)

## 大聯禱

我等安和にして主に祈らん。

主憐めよ。(以下每次同様)

上より降る安和と我等が靈の救の為に主に祈らん。

全世界の安和、神の聖なる諸教会の堅立、及び衆人の合一の為に主に祈らん。

此の聖堂、及び信と慎と神を畏るる心とを以て此に来る者の為に主に祈らん。

教会を司る尊貴なる我等の東京の大主教及び全日本の府主教〔某〕、主教〔某〕、

司祭の尊品、ハリストスに因る輔祭職、悉くの教衆、及び衆人の為に主に祈らん。

我が国の天皇、及び国を司る者の為に主に祈らん。

此の都邑と凡の都邑と地方、及び信を以て此の中に居る者の為に主に祈らん。

慈憐を以て我等不当なる諸僕(婢)の今の感謝と祈禱とを其天上の祭臺に受け、

宏恩なるに因りて我等を憐むが為に主に祈らん。

輔 善く我等の祈を納れて、我等と其衆人とに去年の中に犯しし自由と不自由との  
輔 悉くの罪を赦すが為に主に祈らん。

輔 仁愛の恩寵を以て、今年の始と其日を送ることに福を降し、天下の泰平、氣  
輔 候の順和なること、及び我等に罪過なく、壮健に満足して生を度ることを賜  
輔 が為に主に祈らん。

輔 我等の罪に依りて、凡そ義に稱いて我等に臨む怒を遏むるが為に主に祈らん。  
輔 凡そ靈を害する慾と敗れたる風俗とを我等より遠ざけ、神を畏るる畏れを我が  
輔 心に納れて、其誠を行わしむるが為に主に祈らん。

輔 正しき靈を我等の衷に改め、我等を醇正の教に固め、善事を行い、其凡の  
輔 誠を守るに熱心なる者となすが為に主に祈らん。

輔 凡の異端と歧教とを滅し、遍き處に醇正の教と敬虔とを植え付け、凡そ正教  
輔 に背きし者を真理を知るに轉ぜしめて、彼等を聖なる教会に合すが為に主に祈  
輔 らん。

輔 聖なる教会と我等衆人とを凡の憂愁と、禍害と、忿怒と、危難、及び悉くの  
輔 見ゆると見えざる諸敵より脱れしめ、其信者に壮健と、長壽と、平安とを賜い、

輔 諸天使の守護を以て、常に我等を護るが為に主に祈らん。

輔 神や、爾の恩寵を以て、我等を助け救い憐み護れよ。

輔 至聖至潔にして至りて讚美たる我等の光榮の女宰・生神女・永貞童女マリヤと、  
輔 諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互いに各の身を以て、並びに悉くの我等の  
輔 生命を以て、ハリストス神に委託せん

輔 主爾に。

輔 蓋凡そ光榮尊貴伏拝は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に。

輔 アミン。

### 主は神なり

輔 主は神なり我等を照らせり、主の名に依りて来る者は崇め讃めらる。

輔 主は神なり我等を照らせり、主の名に依りて来る者は崇め讃めらる。(三次)

輔 (句) 主を尊み讃めよ、彼は仁慈にして、その憐は世世にあればなり。

輔 (句) 彼等我を圍み我を環れども、我主の名を以て之を敗れり。

輔 (句) 我死せず、猶生きて主の行う所を傳えん。

(句) 工師が棄てし所の石は屋隅の首石となれり、是主のなす所にして我等の目に奇異なりとす。

### トロパリ (第四調)

主や、我等爾の不当の僕婢たる者、爾の大なる恩を被るに由りて、感謝の心を抱  
爾を尊み歌い讃め揚げ感謝し、爾の仁慈を崇め、僕の謹み且つ愛を以て爾に呼ぶ、  
等に恩を賜う救世主や、光栄は爾のもの為りと。

光栄は父と子と聖神に帰す、 (第三調)

主宰や、我等至つて当たらざる僕婢、爾の恩と賜物とを被りて、熱心を以て爾に走  
りつき力に応じて感謝を献り、爾を恩を賜う主と造物主たるを讃め揚げて呼ぶ、至  
つて廣き恵の神や、光栄は爾のもの為りと。

今も何時も世世に、アミン。 (第二調)

時と歳とを己の権内に置き給いし萬物の造成主よ、爾の恩沢を以て年に冠らせ、  
生神女の祈禱に因りて、天皇及び国を司る者と爾の城邑とを平安に守りて、我等  
を救い給え。

輔司誦 謹みて聴くべし。

衆人に平安。

爾の神にも。

睿智。

### ポロキメン

我恩を施す主を讃め頌い、至上なる主の名を崇め歌わん。

我に恩を賜いし主を崇め頌い、至上の主の名を歌い讃めん。

我が心爾の救を喜ばん。

我に恩を賜いし主を崇め頌い、至上の主の名を歌い讃めん。

我恩を施す主を讃め頌い、

至上の主の名を歌い讃めん。

睿智。

聖使徒パウエルがティモフエイに達する前書の読み。

慎みて聴くべし。

書 札

(ティモフェイ前書 二・二一六)

誦

「子ティモフエイよ、我凡の事に先だちて勧む、衆人の為、帝王及び凡そ権を操る者の為に、祈祷、祈願、懇求、感謝を為さんことを、我等が凡の敬虔と聖潔とを以て、平安にして穏静なる生を度らん為なり、蓋此れ我等の救主、神の前に善にして納れらるる事なり、彼は衆人が救を得、及び真実を知るに至らんことを欲す。蓋神は一なり、神と人との間には仲保者も亦一なり、乃人ハリストス・イイスス、衆人の贖の為に己を與えし者なり。彼に尊敬と光榮とはよよ世に帰す。アミン。」

司 爾に平安。

爾の神にも。

睿智。

誦 輔 「アリルイヤ」(第四調)

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ。

誦 輔 我等に聖福音經を聴くを賜うを主神に祈らん。

誦 輔 主憐めよ。(三次)

睿智、肅みて立て、聖福音經を聴くべし。

司 衆人に平安。

爾の神にも。

司 ルカ伝の聖福音經の読み。

主や、光榮は爾に帰し、光榮は爾に帰す。

誦 輔 謹みて聴くべし。

福 音 (ルカ伝 四・一六—二二)

「彼の時、イイスス其養育せられし所のナザレトに來り、安息の日に、其常例に依りて、会堂に入り、読まんと欲して立てり。預言者イサイヤの書を彼に予うるあり。彼は書を披きて、左に録せる所を出せり、云く、主の神我に在り、蓋彼は我に膏して、貧しき者に福音せしめ、我を遣して、心の傷める者を醫し、擲者に釈を、瞽者に見ることを傳え、圧せらるる者に自由を與え、主の喜年を傳えしめたりと。乃書を掩い、役者に與えて坐せしに、会堂に在る者、皆彼に

詠 目を注げり。彼宣べ始めて曰えり、此の爾等が聴きし所の書は今応えり。衆皆之を證し、且其口より出づる恩寵の言を奇とせり。」  
主や、光榮は爾に歸し、光榮は爾に歸す。

## 重 聯 禱

輔 我等皆靈を全うして曰わん、我等の思を全うして曰わん。  
詠 主憐めよ。  
輔 主全能者吾が列祖の神や、爾に祈る、聆き納れて憐めよ。  
詠 主憐れめよ。  
輔 神や、爾の大きいなる憐に因りて我等を憐めよ、爾に祈る、聆き納れて憐めよ。  
詠 主憐めよ。(三次) 「以下毎時同様」  
輔 又我が国の天皇、及び国を司る者の為に祈る。  
輔 又教会を司る尊貴なる我等の東京の大主教及び全日本の府主教(某)、主教(某)、及びハリストスに於ける悉くの我等の兄弟の為に祈る。

輔 主宰、主、我等の救世主よ、我等不当の僕(婢)として、畏れ戦き、爾が豊に其諸僕(婢)に注ぎたる諸恩の為に、爾の仁慈に感謝して俯伏し、爾に神に適いたる讃揚を奉り、傷感の情を以て籲ぶ、爾の諸僕(婢)に諸の禍を免れしめ、其慈憐なるに因りて、常に我等衆人の善き望を應え給え。熱心にして爾に祈る、聆き納れて憐めよ。  
輔 爾の仁慈を以て今来たりし年の始めに祝福し、我等の内に凡の不和と、不整理と、紛争とを治め、我等に和平と、堅固にして偽なき愛と、正しき整理と、徳の行の度生とを賜わんことを、至善なる主よ、爾に祈る、聆き納れて憐めよ。  
輔 去年の中に有りし我等の数え難き不法と悪事とを憶わず、我が行に由りて我等に報いずして、仁愛と宏恩とを以て我等を顧みることを、慈憐なる主よ、爾に祈る、聆き納れて憐めよ。  
輔 時に合いたる早く又晩き雨、豊稔の露、穏静にして順和なる風を與え、日の温暖を輝かすことを、宏恩なる主よ、爾に祈る、聆き納れて憐めよ。  
輔 爾の聖なる教会を記憶して、之を強くし、之を固くし、之を弘め、之を平和にし、之を地獄の門に悩まされず、見ゆると見えざる諸敵の悉くの悪謀に破られざる

輔 人 輔

者として世世に護らんことを、全能なる主宰よ、爾に祈る、聆き納れて憐めよ。  
凡そ異邦の幽暗を滅して、未だ爾を知らざる諸民を眞の福音經の光にて照さ

ことを、大有能の主よ、爾に祈る、聆き納れて憐めよ。

我等に此の來りし年と、我が生命の悉くの日に於いて、飢饉、疫病、地震、  
水難、火難、雹害、劍難、外攻、内乱、及び死を招く諸害と、凡の憂愁と危難  
とを免れしめんことを、慈愛なる主よ、爾に祈る、聆き納れて憐めよ。

神我が救世主、地の四極と遠く海に居る者との恃や、我等に聞き給え、主宰や、  
我等の罪に仁慈を垂れ、仁慈を垂れて我等を憐めよ、蓋爾は仁慈にして人を愛す  
る神なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に。

司

アミン。

我等膝を屈めて、復又主に祈らん。

輔 詠

主憐れめよ。(三次)

### 祝文

司

主宰我等の神、生命と不死との源、見ゆると見えざる萬物の造成主、時と歳と

詠

を己の権内に有ち、爾の睿智にして至善なる摂理を以て萬有を宰どる主よ、我  
が生命の過ぎ去りし日に於いて我等に顕しし爾の奇妙なる恩恵の為に我等爾に  
感謝す。宏恩なる主よ、爾に祈る、爾の仁慈を以て今來りし年の始めに祝福し、  
我が国の天皇及び国を司る者を護り、其生命の日を増加して、常に彼等を壮健に  
し、萬徳に於いて彼等に進歩を賜え。爾の衆民にも上より爾の善福、壮健と救贖、  
及び萬事に於いて善き進歩を與え給え。爾の聖なる教会、此の城邑と、悉くの  
城邑と地方とを、諸の禍より脱れしめて、此等に平安と穩静とを賜え。願わ  
くは我等に常に爾無原なる父と、爾の独生の子と、至聖にして生命を施す爾の神、  
一體に於いて讚榮せらるる神に感謝を奉り、爾の至聖なる名を讚め歌うを得し  
め給わん。

〔高聲〕 光榮は爾、神、我等の恩主に世世に帰す。

アミン。

### 大詠頌

(聖歌譜に倣つて)

至高きには光榮神に歸し、地には平安降り、人に恵は臨めり、主天の王、神父全

能者や、主独生の子イイスス・ハリストス及び聖神や、爾の大なる光榮に因つて、我等爾を崇め、爾を讃揚げ、爾を伏拝み、爾を尊歌い、爾に感謝す、主神や、神の羔父の子、世の罪を荷いし者や、我等を憐み給え、世の諸の罪を荷いし者や、我等の祈りを納れ給え、父の右に坐する者や、我等を憐み給え、爾は独り聖なり、爾は独り主イイスス・ハリストス神父の光榮を顯す者なればなり、アミン。

我日日に爾を讃揚げ、爾の名を世世に崇め歌わん。

主や、我等を守り、罪なくして此の日を渡らせ給え、主我が先祖の神や、爾は崇め讃められ爾の名は世世に尊み歌わる、アミン。

主や、爾を待むに因りて、爾の憐を我等に垂れ給え。

主や、爾は崇め讃めらる、爾の誠を我に訓え給え。(三次)

主や、爾は世世、我等の避所たり、我嘗て言えり、主や、我を憐み、我が靈を癒し給え、我罪を爾に得ればなり。

主や、爾に趨りつく、爾の旨を行を我に教え給え、爾は我の神、生命の源は爾に在ればなり、爾の光に於いて光を見ん、憐を爾を知る者に恒に垂れ給え。

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者や、我等を憐めよ。(三次)

光榮は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

聖なる常生の者や、我等を憐めよ。

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者や、我等を憐めよ。

※(大詠頌)に代えて、欲すればメディオランの主教聖アムブロシイ作の左の歌を歌う。)

我等爾神を讃め揚げ、爾主を崇め讃む、全地は爾永遠の父を尊む、衆神使と諸天と衆軍とヘルワイムとセラフィム等は絶えざる声を以て爾に呼ぶ、聖、聖、聖なる哉主神サワオフ、天地は爾の威嚴なる光榮に満つ、至りて光榮なる使徒の会、讃美たる預言者の隊、光明なる致命者の軍は爾を讃め揚げ、聖なる教会は全世界に於て、爾悟り難き威嚴の父、拝まるる爾の眞の独生子、及び撫恤者聖神を崇め讃む。ハリストスや、爾は光榮の王、爾は父の永在の子なり。爾は人を救わんと欲して童貞女の腹を忌まざりき。爾は死の針を折りて、信ずる者の為に天国を啓けり。爾は父の光榮に在りて、神の右に坐し、我等は爾が審判者として来らん事



を信ず。故に爾に求む、爾が尊き血にて贖いし爾の諸僕（婢）を助けて、爾の諸聖人と偕に、爾の永遠の光荣に王たらしめ給え。主や、爾の民を救い、爾の業に福を降し、之を改めて、世世に挙げ給え。我等日々に爾を讃め揚げ、爾の名を世世に崇め歌いて、今より永遠に至らん。主や、我等を守り、罪なくして此の日を渡らせ給え。主や、我等を憐み、我等を憐めよ。主や、爾を恃むに因りて、爾の憐を我等に垂れ給え。主や、我等爾を恃めり。願わくは世世に辱を受けざらん、アミン。

輔  
睿智。

至聖なる生神女や、我等を救い給え。

司  
ヘルワィムより尊くセラフィムに並びなく栄え、貞操を破らずして神言を生みし、実の生神女たる爾を崇め讃む。

司  
ハリストス神我等の恃や、光荣は爾に帰す、光荣は爾に帰す。

司  
光荣は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。主憐めよ（三次）。福を降せ。

司  
我等の救の為に、第八日に於て、甘じて肉体の割礼を受け給いしハリストス我等

の真の神は、其至浄なる母、克肖捧神なる吾が諸神父、亜使徒日本の大主教聖ニコライ、及び諸聖人の祈祷に因りて、我等を憐み救わん、彼は善にして人を愛する主なればなり。

詠  
アミン。

### 幾歳も

輔  
主よ、今此處に立ちて祈る爾の諸僕（婢）〔某〕に、萬福にして平安なる度生、壮健と救贖、及び萬事に於ける善き進歩を與えて、彼（等）を幾歳にも護り給え。幾歳も。（三次）